



▲フィールドワークの様子

京都府北部福祉フィールドワークと今後の展開

また、地方で介護の仕事に就いてもらうには、事業所や自治体が個々に努力する従来のやり方だけでなく、地域が一体となって協力し、人材を呼び込むことも大切です。市では、府や京都府北部5市2町がともに福祉人材確保の協力体制を整えており、その一環で「京都府北部福祉フィールドワーク事業」を実施。社会福祉士などを目指す京都市内の大学生を、市内の施設などで受け入れ、介護職や京都府北部地域の魅力を伝えています。数日間のフィールドワーク中、学生は介護施設の見学や市職員から福祉に関する計画の策定について話を聞くなど、地域福祉の現場で学びを深めています。利用者を「介護する」というと「介助」を

イメージしがちです。しかし現場に行くと、利用者やその周りの人がいかに幸せで生き生き暮らせるか、それを支援するのが介護だと学ぶことができます。この取り組みをきっかけに、利用者などのプラスになることを考え、創出するという魅力的な仕事だという気付きがあり、視野が広がりました。施設へ就職につながった例もあります。

こうした、学生が進路を考えている段階でのアプローチや、民間・自治体・学校の枠組みを越えた介護の仕事の魅力発信などを通じ、担い手の育成に取り組むとともに、ICTを活用した業務の効率化を推し進め、介護職を志す人を増やし、これからのより住みやすいまちづくりを進めていきます。

INTERVIEW

介護の仕事を選んだのは、ひとり親家庭で育った生い立ちにあります。親が仕事で家にいない時、近所のおじいさん、おばあさんによく面倒をみてもらったり、遊んでもらったりしていたので、親孝行みたいなことができたらいなという思いがありました。高校に入学した頃、今後社会で介護の必要性が高まるのではないかと考え、介護の道で何か恩返しができないかと思ったのがきっかけです。

ただ、卒業後はそのまま就職することも考えましたが、YMCAのオープンキャンパスに参加した際、先生に親切に対応してもらったことや奨学金制度の説明を受け、同校に入学することを決めました。

YMCAで実習などを通して介護を勉強し、今年度から働きはじめましたが、利用者によって体の硬さが違うなど働いてから分かることも多く、利用者の特性に合わせた介護をしています。日々の仕事は大変ですが「ありがとう」と言ってもらえると嬉しく、やりがいを感じます。

介護の仕事は大変というイメージが多いですが、大変なことはどんな仕事にもあり、どの職種でも変わりないと思います。マイナス面を見るだけでなく、どうすることが面白いのか、やりがいがあるのかを知ってほしいし、見つけてほしいと思います。

ライブ・ステージ 夢咲
野口 宗治さん



高齢化が進み、何らかの支援が必要な高齢者がますます増えています。以前は家族と一緒に暮らし、自然な形で高齢者を支えてきましたが、現在ではその役割の多くを介護職が担っています。

介護職の魅力は、何より人から直接感謝される職業であるということです。感謝される職業はたくさんありますが、高齢者にとって介護職ほど感謝し、頼りにする存在はいないのではないのでしょうか。その人の人生に深く関わり、伴走する介護職ならではの魅力といえるでしょう。また、キャリアアップがしやすいことも介護職の魅力のひとつです。介護福祉士、ケアマネジャー、社会福祉士、さらには施設長など福祉現場での活躍のほか、関連のリハビリセンターや福祉系学校の講師、福祉器具企業など、さまざまな分野で幅広くキャリア形成ができます。

YMCAでは、介護系で唯一の国家資格である介護福祉士になるために必要な技術や知識を教えています。さらに、福祉現場で導入可能な新たなテクノロジー体験なども行っており、介護現場で新しい提案ができる人材を養成しています。介護職は対人援助の専門職です。人と関わり、感謝され、そして自身の人間としての成長を望む人はぜひ目指してほしいです。

舞鶴 YMCA 国際福祉専門学校
校長代理 阿部 和博さん



上、右下) 舞鶴YMCA国際福祉専門学校での実習

民間・自治体・学校の枠を越えて介護の魅力発信

これからの社会に必要な不可欠な介護

平均寿命が延び、いかに健康で長生きするかが意識される現代社会。高齢者が、住み慣れた地域や住まいで、自分らしく生き生きと生活を送るため「介護の仕事」の重要性がますます高まっています。介護は、多くの人が経験する可能性のあるものです。地域でその担い手が充実し、サービスの質が高まれば、生涯にわたって暮らしやすいまちになります。

こうした中、介護の魅力を伝え、その担い手となる人を増やそうと、市では、介護の資

介護福祉士を目指す学生への支援

平成27年、市が誘致した京都府北部唯一の介護福祉士養成校「舞鶴YMCA国際福祉専門学校」には、市内や近隣市町だけでなく、兵庫県や福井県からも学生が集まっています。2年間のカリキュラムで、国家資格である介護福祉

士の受験資格を得ることができ、学生たちは授業や施設での実習を通して、日々技術を磨いています。そんな介護の道を目指す学生を後押ししようと、市では、卒業後、市内で一定期間介護などの業務に従事すれば返還免除となる、年間100万円を上限とした奨学金制度を設けています。これは、介護の仕事に魅力を感じている人が、金銭的な理由で進学を諦めることがないように設けたものです。開校以来7年間で95人が利用、卒業生の多くが市内の介護福祉事業所に就職しています。



第7次舞鶴市総合計画に基づき、まちづくりの方向性や市の取り組み施策・事業をお伝えする「市政の今」。今回は、高齢化社会が進む中、いつまでも生き生きとした生活を送るために欠かせない「介護職の人材確保」について紹介します。



SDGs未来都市